

# 連体節における 「カモシレナイ」「ニチガイナイ」の容認度

李貞姫\*

(e-mail: halfmoonlee@hanmail.net)

---

## 目次

---

1. はじめに
  2. 先行研究の検討
  3. 連体節における「カモシレナイ」の容認度
    - 3.1 内の関係の場合
    - 3.2 外の関係の場合
  4. 連体節における「ニチガイナイ」の容認度
    - 4.1 内の関係の場合
    - 4.2 外の関係の場合
  5. まとめ
- 

## 1. はじめに

本稿では、いわゆる蓋然性判断<sup>1)</sup>と分類されている「カモシレナイ」「ニチガイナイ」を含む連体節を取り上げ、各々の容認度について考察を行う。

一般に「カモシレナイ」「ニチガイナイ」はモダリティ形式の内、疑似性・事柄的度合

---

\* 慶北大学校 日語日文学科 講師 日本語学

1) 蓋然性判断とは、仁田(2000、pp.94)での用語である。仁田は、命題内容を不確かさを含むものとして、想像・思考・推論の中でとらえることによって、成立させたものを概言と呼んでおり、「推量」「徴候性判断」「蓋然性判断」と三つに分けている。

① 推量 : 「ダロウ」

② 徴候性判断 : 「(シ) ソウダ」「ヨウダ」「ラシイ」

③ 蓋然性判断 : 「カモシレナイ」「ニチガイナイ」

いが「ダロウ」より高く「(シ)ソウダ」「ヨウダ」「ラシイ」より低いので、連体節の述語になりうるとしている。「カモシレナイ」「ニチガイナイ」は同じ蓋然性判断を示すにもかかわらず、連体節において、その現れ方が異なり、連体節と主名詞の意味関係、主名詞の意味特性、「トイウ」の介在可否などによって様々な振る舞いを見せる。特に、「ニチガイナイ」は連体節において容認されるものの、文体的な落ち着きの悪く、「トイウ」が介在される場合にはあまり文章化されない。蓋然性判断の「認識の確からしさの度合い」では説明しきれない、もう少しきめの細かい検討が必要であると考えられる。しかし、連体節において、「カモシレナイ」「ニチガイナイ」の現れ方に注目し、容認される具体的な条件を取り扱っている研究はあまり見当たらない。

そこで、本稿では、先行研究の検討を踏まえた上で、具体的な用例の検討を行い、「カモシレナイ」「ニチガイナイ」を含む連体節の容認度を考察する。この際、連体節と主名詞の意味関係によって、言わば「内の関係」と「外の関係」<sup>2)</sup>に分け、主名詞の意味特性、「トイウ」の介在可否などを考察して容認される具体的な条件を検討する。

## 2. 先行研究の検討

「カモシレナイ」「ニチガイナイ」が用いられる連体節の容認度に関する研究は、内の関係における連体節に関する研究と連体節の陳述度をめぐる広い射程の説明原理を目指すものと、大きく二つに分けることができる。

まず、内の関係における連体節に関する研究には、奥津(1974)、三原(1995)があげられる。奥津(1974)、三原(1995)は「カモシレナイ」「ニチガイナイ」は共に連体節の中に現れうるとしている。しかし、どのような文脈状況の下で容認されるのか、容認される具体的な構文的条件については疎かに取り扱われてきたと言える。そこで連体節における「カモシレナイ」「ニチガイナイ」の容認度をもう少しきめ細かに考察する必要がある。

[1] もう会えないかもしれない夫(の出發を見送った)

(奥津(1974))

[2] 犯人が立ち寄るかもしれない店

[3] 倒産するかもしれない会社

2) 寺村(1975~1978)は、連体節と主名詞(底の名詞)との関係を大きく「内の関係」「外の関係」の二種類に分けている。「内の関係」とは、連体節の述語と主名詞の間に特定の格関係が成り立つもので、例文[1]に見られるように「男がさんまを焼く」という形に戻せるものをいう。これに対して、「外の関係」とは、連体節が底の名詞の内容を述べたり、あるいはその内容を補充するもので、例文[2]のように格関係を持った形に戻せないものをいう。

[1] さんまを焼く男 … 「内の関係」

[2] さんまを焼く匂い … 「外の関係」

[4] 犯人が立ち寄るにちがいない店

[5] 倒産するにちがいない店

(三原(1995))

次に、連体節の陳述度をめぐる広い射程の説明原理を目指す研究には、奥津(1974)、寺村(1975~1978)、三原(1995)、益岡(2002)があげられる。その基本的な見方は次のようである。

まず、奥津(1974)は、連体節に含まれるか否かを詞・辞の弁別の基準にしており、連体節に入りうる要素を詞、入りえない要素を辞としている。ここで、詞は客体的素材の概念化による表現であるのに対して、辞は言語主体の意志・情緒など、主観的作用の直接的表現であり、名詞・副詞・動詞・形容詞・格助詞・助動詞などは詞に、文頭詞・文末詞は辞に当たっている。「ラシイ」「カモシレナイ」「ダロウ」を詞的要素に加えており、これらはその意味からすれば、文の内容に関する推量・不確かな判断を表すので、辞的要素のように見える。しかし、連体修飾が可能であり、その分布からみても、他の文末詞よりは前に来るのだから、文末詞と区別して詞的要素に入れるべきであるとしている。

次に、寺村(1975~1978)は、「内の関係」に現れる連体節のモードについて、事柄目あてと関連して、推測・断定を表す助動詞や活用語尾の内、「ソウダ(様態)」「ダロウ」「ラシイ」「ヨウダ」「ハズダ」は入りうるのに対して、「ノダ」「ソウダ(伝聞)」のように聞き手に対して、話し手の態度に関わるものと状況を説明するものは入りえないとしている。「外の関係」と関連し、形態的側面から連体節の陳述度を五段階に設定している。つまり、動詞現在・過去形、形容詞現在・過去形、「~ダッタ」を陳述度1に、「ラシイ」「ダロウ」「カモシレナイ」意向形、推量形を陳述度2に、「~ダ(ノダ、ハズダ)」命令形を陳述度3に、丁寧体を陳述度4に、終助詞を陳述度5に分けてモード性の高低を説明している。

一方、三原(1995)は、判断確定性という概念を提示して、連体節の容認度をめぐる統一の説明を抽出しており、「カモシレナイ」「ニチガイナイ」の連体節での生起がなぜ判断確定性と連動するのかを、連体節の本質的機能および判断様式から導いている。そして、判断確定性が高い概言のモードほど連体節と親和性が高いとして、「カモシレナイ」は確定に近似、「ニチガイナイ」は直感的確定として、連体節の中に容認されるとしている。

最後に、益岡(2002)は、文の概念レベルを用いて連体節の陳述度を論じている。益岡は、文の構成要素を命題、モダリティと分けて、奥津の詞・辞の区分を引き継ぎながらも、連体節の接続形式<sup>3)</sup>の現れ方にも目を向けている。基本型修飾表現には命題のみ現

3) 益岡(2002, pp.93-94)は、連体節の類型を接続形式によって、「基本型修飾表現」「トイウ修飾表現」「トノ修飾表現」「ヨウナ修飾表現」と四つに分けている。

- ①「基本型修飾表現」： 私が友人から聞いた事実
- ②「トイウ修飾表現」： 早く減税すべきだという意見
- ③「トノ修飾表現」： 逆境に負けてはいけないという言葉
- ④「ヨウナ修飾表現」： すき焼きなどの料理を出すような商売

れるのに対して、「トイウ修飾表現」は、「コト系名詞」<sup>4)</sup>が主名詞となる場合には命題に属する要素は現れるが、モダリティに属する要素の出現には制約があると指摘している。しかし、「カモシレナイ」「ニチガイナイ」については具体的な説明に至っていない。

そこで、本稿では、先行研究の結果を十分踏まえた上で詳細な分析を通じ、連体節における「カモシレナイ」「ニチガイナイ」の容認度について考察を試みる。また、容認される具体的な条件を明らかにすることを目的に論を進めていきたい。

### 3. 連体節における「カモシレナイ」の容認度

#### 3.1 内の関係の場合

連体節の述語と主名詞の間に特定の格関係が成り立つものである、言わば内の関係にある連体節を取り上げ、述部にある「カモシレナイ」の容認度を検討する。

- [6] テーブルの向こう側には、人生のパートナーになるかもしれない洋子が伏し目がちに座っていた。  
(佐1994.1.17(社))
- [7] 下にいるかもしれない乗客を捜しているのだろう。  
(佐1994.4.27(社))
- [8] 思い切った戦法を仕掛けてくるかもしれない広島をどうしのぐか。  
(佐1994.11(ス))
- [9] 北朝鮮が既に保有しているかもしれない核兵器について米国が問題にしない可能性がある。  
(佐1994.6.18(国))
- [10] 襲うかもしれない津波の恐怖。
- [11] a吉野ケ里の弥生人も食べたかもしれないヒシの実を食べてみたい。  
(佐1996.10.9(ひ))
- b吉野ケ里の弥生人も食べたかもしれない実を食べてみたい。

[6]～[10]からうかがわれるように、内の関係における「カモシレナイ」は、固有名詞、一般名詞と主名詞に制限なく容認される。また、[11a]のように、主名詞に修飾語を重層的に付加し、非限定的連体節に近似してゆく場合も容認されるし、「ヒシの」を除去した[11b]の場合にも容認度に問題はない。

つまり、内の関係における「カモシレナイ」は、主名詞の種類や限定の仕方に影響されず容認される。

では、内の関係における「ダロウ」<sup>5)</sup>の容認度に制限があるのに対して、「可能性の

4)益岡(2002, pp.110-111)は、寺村のいう「発話・思考名詞」を「引用系名詞」、「コト名詞」を「コト系名詞」と呼んでいる。

存在」を表す形式である「カモシレナイ」はなぜ容認されるのだろうか。これには、「カモシレナイ」の文末モダリティとしての意味的特徴が深く関わっていると考え、「カモシレナイ」の基本的意味を分析する。

従来から指摘されてきたように、「カモシレナイ」は、「可能性がある」という認識を表す形式である。これについて、仁田(2000)は、「カモシレナイ」の有する基本的意味を「可能性把握」ととらえており、命題内容として描きとられている事態が生起する可能性をもったものであるとし、事態生起の可能性を描き出すことによって、事態の成立を、不確なもの、可能性程度の確からしさのものとしてとらえていることを表すと論じている。

言い換えると、事態生起の可能性があるということは、同時に起らない可能性も残されていることでもあり、[12]のように両立しえない2事態を、同時に「カモシレナイ」によって並列させることは可能である。したがって、[13a]のように、両立しえない2事態の典型である同一事態の生起・不生起を並列させることができる。

[12] 終戦宣言という悪質な茶番を思いついたのは局長かもしれないし、知事かもしれない。(バ)

[13] a 花子は来るかもしれないし、来ないかもしれない。

b\*花子は来るだろうし、来ないだろう。

c 花子は来るかもしれない。

また、[13c]における「カモシレナイ」は、「花子が来る」という可能性の存在を確信的に述べており、可能性が低いという認識を表すわけではない。したがって、それは「花子が来る可能性がある」と判断的に同義である。来る可能性を確信的に述べることは、来ない可能性を排除するものではない。重要なのは「可能性の存在」であり、また、そのことにしたがって、[13a]のように肯定・否定を併置することができるのである。このように「カモシレナイ」が可能性を確信的に述べていることに連体節での容認性が関係していると思われる。

以上、検討の結果、内の関係にある連体節における「カモシレナイ」は、主名詞の種類や限定の仕方にかかわらず容認される。これは「カモシレナイ」が「可能性の存在」という認識を表しており、その可能性を確信的に述べることに起因するのではないかと考えられる。

## 3.2 外の場合

### 3.2.1 「トイウ」が介入されない場合

5) 連体節における「ダロウ」の容認度には制限がある。[1]のように主名詞が一般名詞の場合には容認されないものの、[2]のように主名詞がを固有名詞の場合と、[3b]のように非限定的連体節に対応する構造にしてみると、容認度が高くなることが認められる。

[1] \*だれでも聞いたろう噂。

[2] ? 今頃はソウルに着いたろう鈴木さん。

[3] a\*次郎も見たろう映画。

b 次郎も見たろうその映画。

まず、連体節の述部に「カモシレナイ」が用いられる場合を取り上げる。

[14] ある男性方には、耳障りだったかもしれない言葉がアバンセに飛び交いました。

(佐1997.2.3(ひ))

[15] 愛するということは、愛されないかもしれない覚悟も含めた上に、成立する感覚なのよ。

(佐1998.4.10(ひ))

[16] 赤字経営だということで、廃止されるかもしれない運命にあるようだ。

(佐1996.10.7(ひ))

[17] ホリフィールドの出来栄は、再び統一世界王者になる目的を追求する上で、苦戦が続くかもしれない気配を漂わせた。

(佐2000.8.15(ス))

[18] 無事帰ってきて、また行きたいと言ってしまうかもしれない不安。

(佐2004.3.28(地))

連体節の述部に「カモシレナイ」が用いられると、主名詞<sup>6)</sup>として「言葉」「覚悟」「運命」「気配」「不安」などが使われており、主名詞に制限なく用いられる。また、主な主名詞には次の【表1】のようなものが挙げられる。

【表1】 「カモシレナイ」に後接する主名詞の種類(「トイウ」が介入されない場合)

発話・思考 名詞	発話名詞	言葉
	思考名詞	覚悟
コト名詞		話、運命、可能性、恐れ、危険性
感覚名詞		気配
相対性名詞		他、相手、不安

【表1】からうかがわれるように、連体節内に「カモシレナイ」が用いられると、主名詞に制限がなく「発話・思考名詞」「コト名詞」「感覚名詞」「相対性名詞」が後接しており、しかも「トイウ」の介入なしに使われることがわかる。これは、「ダロウ」が「トイウ」の介入の下で「発話・思考名詞」と「コト名詞」に限られて使われており、容認度が低いものに対して、「カモシレナイ」の容認度が相対的に高いことを意味する。

次に、連体節の述部に「カモシレナイ」が用いられ、主名詞として形式名詞が使われている場合を取り上げる。

[19] 死亡するに至るかもしれないことを認識しながら暴行を加えた。(佐2003.8.2(社))

6) 寺村(1975, pp261-269)の分類に従ったものである。

- [20] 宅配便を利用するときは、相手のお宅が留守かもしれないことを考慮したいものです。  
(佐1998.5.15(情))
- [21] 協会は違法コピーの通り道になるかもしれないものを役所で使うのは問題と批判する  
(佐2006.3.18(総合))
- [22] 説明を聞いた参加者から「続けられるかもしれないところが見つかった」「もう一度、  
勉強します」などの言葉が聞こえ、… (佐2000.12.24(社))

いずれも主名詞に「コト」「モノ」「トコロ」が使われており、後接する動詞には、主に思考という語彙的意味特徴を有した動詞が使われている。例えば、次のようなものがそれに当る。

予測する、認識する、考える、承知する、思い出す、見つめる、考慮する、知る

連体節の述部に「カモシレナイ」が用いられると、主名詞として「コト」「モノ」「トコロ」のような形式名詞が使われることがある。その用例<sup>7)</sup>の出現頻度を調べてみると次の【表2】ようである。【表2】に示されているように、「コト」の使われる頻度がかなり高いのに対して、「モノ」と「トコロ」はほとんど使われていないことがわかる。

【表2】 「カモシレナイ」に後接する形式名詞の出現頻度

	佐賀新聞	新潮文庫100冊	用例数
カモシレナイコト	24	2	26
カモシレナイモノ	2	0	2
カモシレナイトコロ	1	1	2

以上述べてきたように、連体節の述部に「カモシレナイ」が用いられると、主名詞に制限がなく「発話・思考名詞」「コト名詞」「感覚名詞」「相対性名詞」が後接しており、しかも「トイウ」の介入なしに使われることがわかる。また、形式名詞の中では「コト」の使われる頻度がかなり高く、この際、後接する動詞には、主に思考という語彙的意味特徴を有した動詞が使われている。

### 3.2.2 「トイウ」が介入される場合

[23]～[27]に見られるように、外の関係の場合、陳述と関連がある要素「カモシレナイ」が連体節の内部に用いられると、「トイウ」が介入される場合がある。前節で確認されたように、「カモシレナイ」は「トイウ」の介入なしでも使用可能であることから、「カモシレナイ」

7) 『CD-ROM版新潮文庫の100冊』(発行:新潮社1995)と佐賀新聞記事データベース(1994年1月～2004年5月)(<http://www.saga-s.co.jp>)から検索した。

が用いられる連体節で「トイウ」の介入は任意的であることがわかる。

[23] テロ事件が再び起こるかもしれないという噂などによる。 (佐2002.6.27(社))

[24] 喜助は、玉枝が家へきてくれるかもしれないという思いがちおんでしまった。 (雁)

[25] 彼女と何かをわかちあえるかもしれないという気がした。 (世)

[26] いつの日かお金を出して買わなければならない時代が来るかもしれないという内容でした。  
(佐2003.3.17(ひ))

[27] 令子の祖母が言った、またこの世で逢えるかもしれないというあの話が、… (錦)

接続形式「トイウ」が用いられると、主名詞として「噂」「思い」「気」「内容」「話」などが使われている。また、「トイウ」の介入なしでは主名詞に制限がなく、「発話・思考名詞」「コト名詞」「感覚名詞」「相対性名詞」が使われるのに対して、「トイウ」の介入されると「発話・思考名詞」「コト名詞」が主名詞として用いられる。なお、主な主名詞には次の【表3】のようなものが挙げられる。

【表3】「カモシレナイ」に後接する主名詞の種類(「トイウ」が介入される場合)

発話・思考 名詞	発話名詞	噂、説
	思考名詞	思い、気持ち、発想、気、認識、覚悟、根拠、期待、雰囲気、希望、配慮、考え、概念、試み、願い、予感、心配、予測、意識、内省、危惧
コト名詞		圧力、こと、情報、恐れ、意味、自覚、内容、出来事、知らせ、わけ、立場、状況、口実、研究、特徴、緊張、話

以上の検討をまとめると、連体節の内部構造に「カモシレナイ」が用いられると、「トイウ」の介入は任意的であり、「トイウ」の介入なしでは、主名詞の制限がないのに対して、「トイウ」が介入されると、「発話・思考名詞」「コト名詞」が主名詞として用いられることがわかる。

## 4. 連体節における「ニチガイナイ」の容認度

### 4.1 内の関係の場合

連体節の述語と主名詞の間に特定の格関係が成り立つものである、言わば内の関係に



ある連体節を取り上げ、述部にある「ニチガイナイ」の容認度を検討する。

- [28] ペントハウスに忍び込んで隠されているにちがいない財産をぬすもうとする物語。  
(朝2012.2.22(エ))
- [29] さんざん自分を責めたにちがいない遭難者にとって、これほど暖かい言葉はないだろう。  
(朝2011.4.27(エ))
- [30] ひさしが生きていれば必ず発したにちがいない怒りと懸念だ。(佐2012.6.24(文))
- [31] 万人がおならに抱いているにちがいない切実さと解放感を、こんなに端的にいい表してくれるとは。  
(佐2009.11.8(文))
- [32] 恐らく当地でウナギを賞味したにちがいない息子の齋藤茂太氏と北夫氏の兄弟対談に、父親のウナギ好きを語ったものがある。  
(佐1996.7.23(総))
- [33] a. 本書は今書き残しておかねば歴史の闇に消えてしまうにちがいない貴重な証言に満ちている。  
(朝2006.12.10(エ))  
b. 本書は今書き残しておかねば歴史の闇に消えてしまうにちがいない証言に満ちている。
- [34] a. てんぐはこの上を渡っていたにちがいない蛇行する川に点々と広がる岩石を見つめると、そんな思いにさせられる。  
(佐1999.8.2(社))  
b. てんぐはこの上を渡っていたにちがいない川に点々と広がる岩石を見つめると、そんな思いにさせられる。
- [35] a…「反人間的で、やがて、いずれ亡ぶにちがいない一過性の現象」と、ぱっきり切った。  
(佐2000.3.20(文))  
b…「反人間的で、やがて、いずれ亡ぶにちがいない現象」と、ぱっきり切った。

[28]～[32]からうかがわれるように、内の関係における「ニチガイナイ」は、一般名詞、固有名詞と主名詞に制限なく容認される。また、[33a]～[35a]のように、主名詞に修飾語を重層的に付加し、非限定的連体節に近似してゆく場合も容認されるし、「貴重な」「蛇行する」「一過性の」を除去した[33b]～[35b]の場合にも容認度に問題はない。

つまり、内の関係における「ニチガイナイ」は、主名詞の種類や限定の仕方に影響されず容認される。

## 4.2 外の場合

### 4.2.1 「トイウ」が介入されない場合

まず、連体節の述部に「ニチガイナイ」が用いられる場合を取り上げる。

- [36] 五月病じゃないのかと、母親が誰かから聞いたにちがいない言葉を使った。  
(朝2010.5.14(マ))

- [37] 本書はそんな気分を消沈させてしまうにちがいない必死の訴えに満ちている。  
(朝2004.9.5(B))
- [38] 巧拙を越えてだれもが抱いたにちがいない思いが17文字から伝わる。(朝2011.4.23(文))
- [39] 市内の大川でもこの鮎が獲れたにちがいない時代がよみがえった。(朝2010.7.17(マ))
- [40] 来年にはますます多くの乗降客があるにちがいない場所。(朝2011.12.22(オ))
- [41] 電子辞書の貸出をめくり競合各社をいら立たせるにちがいない興味深い展開として、…  
(朝2011.11.4(ラ))

連体節の述部に「ニチガイナイ」が用いられると、主名詞として「訴え」「思い」「時代」「場所」などが使われており、主な主名詞には、次の【表4】のようなものが挙げられる。

【表4】 「ニチガイナイ」に後接する主名詞の種類(「トイウ」が介入されない場合)

発話・思考 名詞	発話名詞	訴え 言葉
	思考名詞	思い
コト名詞		時代 場所 一曲 都市 もの 展開

【表4】からうかがわれるように、連体節内に「ニチガイナイ」が用いられると、主名詞に制限があり、「発話・思考名詞」「コト名詞」が後接している。これは「トイウ」の介入されない場合、「ニチガイナイ」の容認度は「カモシレナイ」に比べて相対的に低いことを意味する。

#### 4.2.2 「トイウ」が介入される場合

[42]～[45]に見られるように、外の関係の場合、陳述と関連がある要素「ニチガイナイ」が連体節の内部に用いられると、「トイウ」が介入される場合がある。前節で確認されたように、「ニチガイナイ」は「トイウ」の介入なしでも使用可能であることから、「ニチガイナイ」が用いられる連体節で「トイウ」の介入は任意的であることがわかる。

- [42] だが、そもそもこんなに可愛いなら私の妹にちがいないという言葉そのものが理論ではない。  
(朝2000.4.12(社))
- [43] ヨハン・ペーター・ヘーベルの詩にわれわれにとって何かもっとよい未来があるにちがいないという一節がある。  
(朝2011.6.2(文))
- [44] あの人には犯人にちがいないという感情が先行すると、市民の判断に悪影響を与え、冤罪が増える恐れがある。  
(朝2010.8.19(社))

[45] しかし、小谷さんの脳裏からきつと子供をかばって亡くなったのにちがいないという思いが離れない。  
(佐1995.1.29(社))

接続形式「トイウ」が用いられると、主名詞として「言葉」「一節」「感情」「思い」などが使われている。また、「トイウ」の介入なしでは、「発話・思考名詞」「コト名詞」が使われるのに対して、「トイウ」が介入されると、「発話・思考名詞」が主名詞として用いられることがわかる。

以上の検討をまとめると、連体節の内部構造に「ニチガイナイ」が用いられると、「トイウ」の介入は任意的であり、「トイウ」の介入なしでは、主名詞の制限があり、「発話・思考名詞」「コト名詞」が使われるのに対して、「トイウ」が介入されると、「発話・思考名詞」が主名詞として用いられることがわかる。

一方、一般的に、連体節における概言の容認度は、内の関係より外の関係で高い。最も低い「ダロウ」の場合でも、外の関係で「トイウ」の介入の下で容認される。しかし、「ニチガイナイ」の場合には容認されるものの、特に「トイウ」が介入されると、その出現頻度が極めて低く、あまり文章化されていない。

では、このような現象はなぜ起るのだろうか。このような問題点を解決する手がかりをつかむために、「ニチガイナイ」の文末モダリティとしての意味的特徴が深く関わっていると考え、「ニチガイナイ」の基本的意味を分析する。

従来から指摘されてきたように、「ニチガイナイ」は、断定はできないが、その断定が間違いのないものとして確信されるという意味を表す形式である。これについて、仁田(2000)は、「ニチガイナイ」の有する基本的意味を「必然性把握」ととらえており、命題内容として描き取られている事態の生起・実現の確率がきわめて高いことを示すものであると論じている。

また、仁田は、共起する副詞(相当)の検討から、「ニチガイナイ」は「きつと」「必ず」などと共起しており、事態成立の高確率を表すのに対して、「カモシレナイ」は「もしかしたら」「ひょっとしたら」「万が一」や「必ずしも」(否定を要求)などと共起しており、「カモシレナイ」に焼き付けられている確からしきは、低いタイプのものであると論じている。

では、外の関係の場合、認識の確からしさの度合いが低い「カモシレナイ」が連体節内に容認されるのに対して、確からしさの度合いが高い「ニチガイナイ」は、なぜ文体的落ち着きが悪いのだろうか。上述した「認識の確からしさの度合い」では説明しきれないようである。これには「ニチガイナイ」の周辺の意味が関わっていると考えられる。

まず、寺村(1984)は、「ニチガイナイ」は、自分の思案、推量を自分に確かめるような、独白的な使い方が普通であり、誰かの間に答える文では使われないところに特徴があると述べている。

[46] 「合格」と食紅で書かれたもちを、かみしめるように一人で食べていた。きっと、合格への願いを込めて食べたにちがいない。こんなに、大切に食べてくれるのだから、受験生の親子の気持ちがよく分かる。 (佐1998.1.21(ひ))

[47] 金さんは今日来られますか？

— はい、来ます。

— 来るかもしれませんが、来ないかもしれません。

—\* はい、来るにちがいません。

次に、三宅(1995)は、[48]のように、「ダロウ」を「ニチガイナイ」に置き換えることができないことから、「ニチガイナイ」は、聞き手よりも話し手の方がより多くの(詳しい)情報を有していることが明らかであって、聞き手に求められている情報のある種の責任を持って伝えるような文脈で用いることができないと述べる。これは、話し手の確信(思い込み)を述べることが不適切とみなされる文脈だからであり、医者や天気予報などがこの文脈の典型的なものである。

[48] a 明日のソウル地方は、一般的に、晴れた天気になるでしょう。

b\*明日のソウル地方は、一般的に、晴れた天気になるにちがいません。

以上、述べてきたように、「ニチガイナイ」は、話者の思い込みを私的認識中にとどめようとする傾向が強く、独白的な使い方が普通である。言い換えると、「ハズダ」のように論理的推論による十分にありうる結論を述べるものではなく、主観的には確定ととらえたい気持ちを表明するものであり、このことが、非確定であるかもしれない可能性を意図的に排除しようとする心の傾きを示している。それが、連体節における「ニチガイナイ」の文体的な落ち着きの悪さの遠因ではないかと考えられる。

## 5. まとめ

本稿では、従来あまり注目されなかったと判断される連体節における「カモシレナイ」「ニチガイナイ」の容認度の考察を試みた。この際、連体節と主名詞の意味関係によって、言わば「内の関係」と「外の関係」に分け、主名詞の意味特性、「トイウ」の介在可否などを考察して容認される具体的な条件を検討した。

得られた結果をまとめると次のようである。

### 1 「カモシレナイ」の容認度

(1)内の関係では、「カモシレナイ」は、主名詞の種類や限定の仕方にかかわらず容認

される。これは「カモシレナイ」が「可能性の存在」という認識を表すことに起因するのではないかと考えられる。

(2)外の関係では、連体節の内部構造に「カモシレナイ」が用いられると、「トイウ」の介入なしに使用可能であり、この際、主名詞に制限がなく、「発話・思考名詞」「コト名詞」「感覚名詞」「相対性名詞」が後接していることがわかる。また、形式名詞の中では「コト」の使われる頻度が最も高く、この際、後接する動詞には、思考という語彙の意味特徴を有した動詞が用いられることも明らかになった。「トイウ」が介入されると、「発話・思考名詞」「コト名詞」が主名詞として後接することも確認された。

## 2 「ニチガイナイ」の容認度

(1)内の関係では、「ニチガイナイ」は、主名詞の種類や限定の仕方にかかわらず容認される。

(2)外の関係では、連体節の内部構造に「ニチガイナイ」が用いられると、「トイウ」の介入なしに使用可能であり、この際、主名詞に制限があり「発話・思考名詞」「コト名詞」が後接している。「トイウ」が介入されると、「発話・思考名詞」が主名詞として後接することも確認された。しかし、「ニチガイナイ」は、連体節において容認されるものの、文体的に完全であるといえるべく、特に「トイウ」が介入されると極めてその出現頻度が低い。これは「ニチガイナイ」が、独自の使い方が普通であり、話者の思い込みを私的認識中にとどめようとする傾向が強いことに起因するのではないかと考えられる。以上をまとめて示すと次のようである。

	内の関係				外の関係					
	一般名詞	固有名詞	限定的連体節	非限定的連体節	「トイウ」なし				「トイウ」あり	
					発話思考名詞	コト名詞	感覚名詞	相対性名詞	発話思考名詞	コト名詞
カモシレナイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ニチガイナイ	○	○	○	○	○	○	×	×	○	×

## 【参考文献】

- 奥津圭一郎 1974 『生成日本文法論』、大修館書店 pp.41-47
- 寺村秀夫 1975～1978 「連体修飾のシンタクスと意味—その1～その4—」  
『日本語・日本文化』4号～7号、大阪外国語大学学生別科  
pp.249-250、pp.261-269
- \_\_\_\_\_ 1984 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版 pp.235-236
- 仁田義雄 1991 「現代日本語文のモダリティの体系と構造」 『日本語のモダリティ』、くろしお出版
- \_\_\_\_\_ 2000 「認識のモダリティとその周辺」 『日本語の文法3 モダリティ』、岩波書店  
pp.93-96、pp.130-141
- 仁田義雄・益岡隆志(編) 1989 『日本語のモダリティ』、くろしお出版
- 野田尚史 1984 「～にちがいない/～かもしれない/～はずだ」 『日本語学』3-10、明治書院
- 益岡隆志 1995 「連体節の表現と主名詞の主題性」 『日本語の主題と取り立』くろしお出版
- \_\_\_\_\_ 2002 「連体修飾表現」 『複文と談話』岩波書店 pp.93-94、pp.113-116
- 三原健一 1995 「概言ムード表現と連体修飾節」  
『複文の研究(下)』くろしお出版 pp.285-289
- 三宅知宏 1995 「「推量」について」 『国語学』183集 国語学会 pp.80-81
- 宮島達夫・仁田義雄(編) 1995 『日本語類義表現の文法(上)単文編』くろしお出版
- 森山卓郎 1989 「認識ムードとその周辺」 『日本語のモダリティ』くろしお出版
- \_\_\_\_\_ 1990 「モダリティ」 『日本語学』9-10 明治書院

## 【用例の出典】

- 『CD-ROM版 新潮文庫の100冊』(発行:新潮社 1995)  
井状鱒二『黒い雨』(黒)、開高健『パニック・裸の王様』(パ)、星新一『人民は弱し官吏は強し』(人)、水上勉『雁の寺・越前竹人形』(雁)、宮本輝『錦繡』(錦)、村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』(世)
- 佐賀新聞記事データベース(1994年1月～2012年11)(<http://www.saga-s.co.jp>)  
総合(総)、国際(国)、経済(経)、地方(地)、スポーツ(ス)、社会(社)、文化(文)、ひろば(ひ)、論説(論)、特集記事(特)、情報(情)
- 朝日新聞デジタル(1994年1月～2012年11)(<http://sitesearch.asahi.com>)  
文化(文)、社会(社)、エンタメ(エ)、マイタウン(マ)、ライフ(ラ)、オリンピック(オ)、BOOK(B)  
※例文中、出典の明記がないのは筆者の作例である。

## 要旨

本稿では、連体節の述部にある「カモシレナイ」「ニチガイナイ」の現れ方に注目し、その容認度について考察した。

その結果、「カモシレナイ」の容認度は、内の関係では、主名詞の種類や限定の仕方にかかわらず容認される。外の関係では、連体節の内部構造に「カモシレナイ」が用いられると、「トイウ」の介入なしに使用可能であり、この際主名詞に制限がないのに対して、「トイウ」が介入されると、「発話・思考名詞」「コト名詞」が主名詞として後接することも確認された。

一方、「ニチガイナイ」の容認度は、内の関係では、主名詞の種類や限定の仕方にかかわらず容認される。外の関係では「トイウ」の介入なしに使用可能であり、この際主名詞に制限があり、「発話・思考名詞」「コト名詞」が後接していることがわかる。これに対して、「トイウ」が介入されると、「発話・思考名詞」が主名詞として後接することも確認された。

「ニチガイナイ」は、連体節において容認されるものの、文体的に完全であるといえるべく、特に「トイウ」が介入されるとその出現頻度が極めて低い。これは、「ニチガイナイ」が、独自の使い方が普通であり、話者の思い込みを私的認識中にとどめようとする傾向が強いことに起因するのではないかと考えられる。

キーワード：連体節、内の関係、外の関係、カモシレナイ、ニチガイナイ、主名詞、容認度

투 고 : 2012. 11. 30

1차 심사 : 2012. 12. 15

2차 심사 : 2013. 1. 5